

～環境にやさしい地下鉄を目指して～

## 2020年度に向けた東京メトログループ長期環境戦略 「みんなECO.」を策定しました

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）では、環境負荷低減につながる様々な施策を長期的かつ戦略的に実施するため、**2020年度に向けた東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」**を新たに策定しました。

東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」は、「東京メトロ自らのエコ化」「東京メトロを使ってエコ」「沿線地域とエコ」の3つのテーマに基づき積極的な環境保全活動を展開するものです。自社による環境負荷低減の施策を図ることにより、**2020年度の鉄道事業における総エネルギー使用量を、現在の9路線が年間を通じて稼働した初年度となる2009年度実績より増加させないことを目標とします。**また、環境に優しい鉄道を多くのお客様にご利用いただけるようより安全で利便性の高い鉄道サービスを提供し環境負荷の低減に寄与するほか、沿線地域とともに環境保全活動を活性化し、東京の環境負荷の低減と、魅力と活力あふれる東京の実現に貢献していきます。

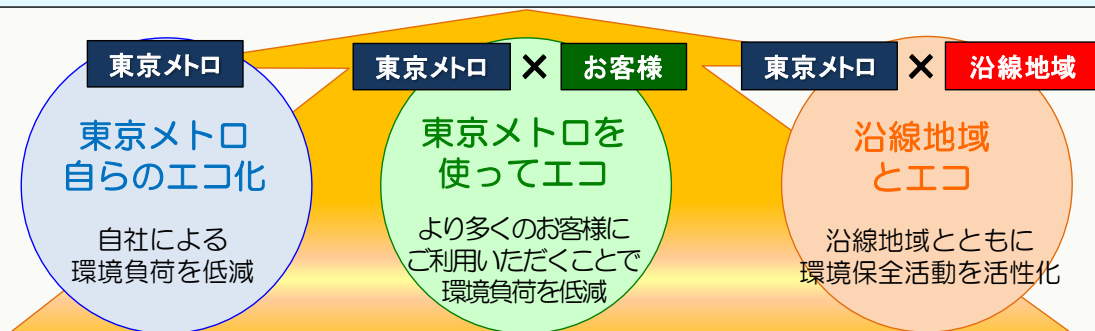
東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」の概要は、別紙のとおりです。

### ■東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」取組みイメージ

#### 東京メトログループ 長期環境戦略「みんなECO.」

##### 【2020年に目指す姿】

首都東京の都市機能を支える事業展開を通じ、東京の環境負荷の低減と、魅力と活力あふれる東京の実現に貢献



## ■東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」の概要

### (1) 3つのテーマを掲げ、積極的な環境保全活動を展開

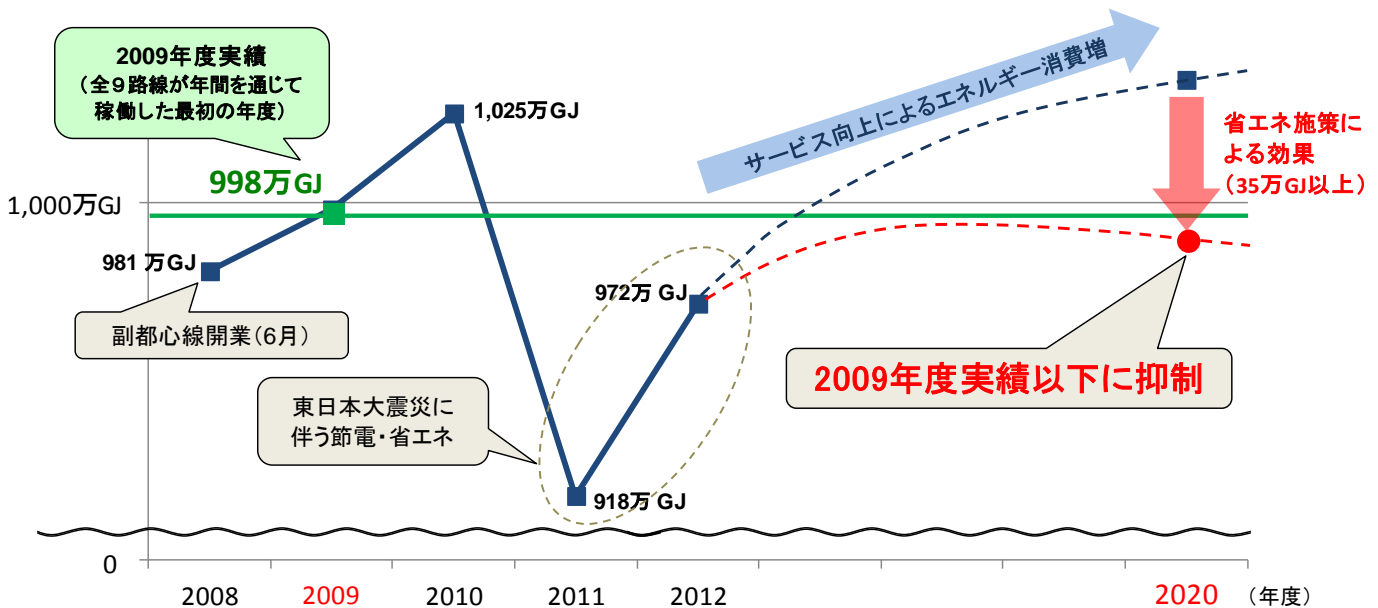
「みんなでECO.」では、「東京メトロ自らのエコ化」「東京メトロを使ってエコ」「沿線地域とエコ」の3つのテーマを掲げ、取組みを推進していきます。

※主な取組みについては、【参考】をご参照ください。

東京メトロ 自らのエコ化	エネルギー消費が少ない車両や機器の導入、再生可能エネルギーの活用による地球温暖化防止、リサイクル・リユースや資源の効率的な利用による廃棄物削減、振動・騒音の低減などの取組みをこれまで以上に積極的に推進し、事業活動における環境負荷を可能な限り低減していきます。
東京メトロを 使ってエコ	自らの環境負荷低減に並行して、東京メトログループ中期経営計画「東京メトロプラン2015」で掲げる「安全で質の高い鉄道サービスの提供」を着実に推進していきます。これにより、地下鉄の利便性向上を図り、より多くのお客様に安心してご利用いただくことで、東京の交通機能における環境負荷を可能な限り低減していきます。
沿線地域と エコ	「東京とともに成長する」との観点から、沿線地域と連携した環境保全活動を推進していくことで、東京に集う人々のいきいきとした毎日に貢献していきます。

### (2) 2020年度までの目標を設定

東京メトログループ中期経営計画「東京メトロプラン2015」で掲げる「安全で質の高い鉄道サービスの提供」を着実に推進する一方で、省エネルギー施策に積極的に取り組むことにより、2020年度の鉄道事業における総エネルギー使用量を2009年度実績より増加させないことを目標とします。



\* これらの施策については現段階での予定であり、今後予告なく内容・工期の変更、または中止となる可能性があります。

## ■東京メトログループ長期環境戦略「みんなでECO.」における主な取組み

環境負荷の低減につながる取組みは、昨年度から「みんなでECO. 東京メトロ・エコプロジェクト」と位置づけ積極的に進めておりますが、今後も引き続き同プロジェクトとして展開していきます。

### <環境配慮型車両の導入>

大幅な省エネルギー化を実現するVVVFインバーター制御装置や電力回生ブレーキ、永久磁石同期モータ（PMSM）などを搭載した環境配慮型車両を導入します。

今後は銀座線や千代田線への新造車両の導入や、丸ノ内線や半蔵門線で既存車両の改良を予定しています。



### <駅構内照明や車内照明、駅サインシステムのLED化>

車両車内や駅構内において、消費電力量を約40%削減するLED照明を順次導入していきます。駅構内では、2011年度から駅改良工事やトイレ改装工事などに合わせ導入しているほか、車両車内では、2012年度に銀座線1000系で本格採用して以降、新造車両の導入や既存車両の改良などに合わせ導入を進めています。

このほか、各駅の案内看板や運賃表、駅名看板などのサインシステムや、駅出入口のシンボルマーク（ハートM）、広告看板についてもLED内照式に更新して消費電力の削減を図ります。



### <東西線ソーラー発電所計画の推進>

再生可能エネルギーのさらなる活用を目指し、地上駅のホーム屋根上に太陽光発電パネルを設置し、エレベーターや照明などの駅設備で使用する付帯用電力として供給しています。

現在、「東西線ソーラー発電所計画」として、東西線西葛西～西船橋駅間の地上駅全駅に順次導入を進めています。これに伴い、全駅（8駅）における年間の合算最大出力は約1メガワット（約100万kWh）となり、メガソーラー規模の発電規模を有することとなります。

これは、南砂町～西船橋駅間で消費される付帯用電力の11%に相当し、年間で463 tのCO<sub>2</sub>排出削減（クスノキ約2,500本分）が可能となります。

